

中学校第2学年 保健体育科 学習指導案

1 単元名 武道（剣道）

2 単元について

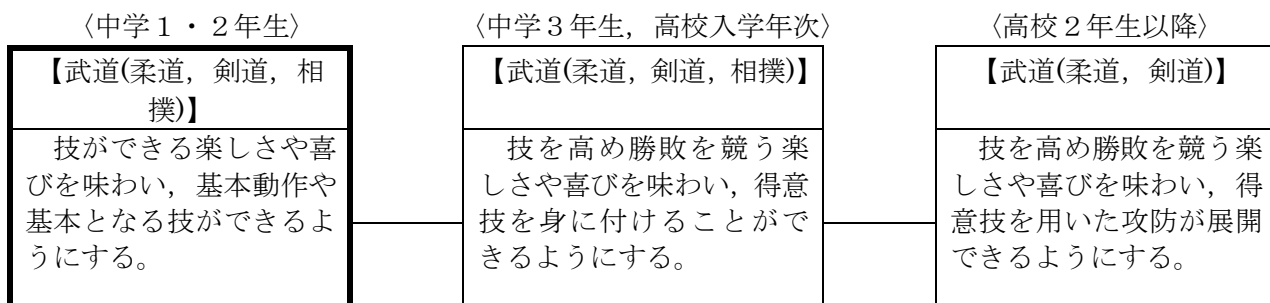
(1) 本単元は、学習指導要領〔体育分野〕F 武道の内容である。剣道の持つ文化に触れることや単元を貫く問いを設定し、課題解決に向け、仲間と関わり合いながら攻防の楽しさや喜びを味わうことをねらいとする。

剣道は、武技、武術等から発生した我が国固有の文化であり、積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合を行うことを重視する。

また、竹刀を使って、基本となる技や獲得した得意技を用いて相手と攻防を展開する中で、互いに「有効打突」を目指して複雑に変化する相手の動きに対応し、「一本」を決める喜びを味わうことができる運動である。

本学習では、攻防の楽しさや喜びを味わいながら先人が行ってきた運動文化に触れ、体育分野による「見方・考え方」を働かせ、係わり合いの中で個々人の気付きを出し合いながら課題解決を図る。この学習を行うことは、本校が目指す資質・能力である「合理的な解決に向けて工夫する力」を育成し、学校教育目標「自己の将来に夢を持ち、自己実現の努力をする生徒の育成」の実現につながるものとする。

(2) 本単元の系統は次のとおりである。



(3) 生徒の実態は、次のとおりである。

○体力テスト結果から、男女ともに全体的には全国平均値をやや下回る体力の状況である。また、授業については各活動に対して真面目に取り組む生徒が多い。しかし、男女ともに運動の二極化が見られ、体力差や取組の差が大きいように感じられる。

○グループ学習や話し合いなどの協働的な学習場面において自分及び仲間の課題に対して的確なアドバイスができる力は十分とは言えない。

(4) 指導に当たっては、次の事項に留意する。

○技能の向上とともに体力も高められるよう準備運動の工夫を行う。

○主要場面の活動量を確保するため、準備運動や主要場面の流し方、まとめの行い方等単元計画の工夫を行う。

○「合理的な解決に向けて工夫する力」を育むために、常にペア学習等での関わり合いを設定し、考えを出しやすい雰囲気づくりを行う。

○準備の時間短縮ができるようにペアでの着脱を行う。

○研究の視点に基づき、次の①②のような工夫を行う。

(研究の視点①)
「見方・考え方」に
着目した問いの工夫

- 向上心を持たせるオリエンテーションの充実
- 必然性のある単元を貫く問いの設定
- 2つの概念（視点）を中心とした課題解決学習
- 技能ポイントの提示

(研究の視点②)
学びを実感する
振り返りの工夫

- 自分の動きの変容に気付かせる協働的な学習場面の設定
- 学習カードによる明確な振り返り
- 動画による明確な振り返り

3 単元の目標と評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識
①剣道の学習に自主的に取り組もうとしている。 ②伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ③互いに助け合い、教え合おうとしている。 ④竹刀や剣道具の使い方や安全に留意している。	①技を身につけるための運動の行い方のポイントを身に付けている。 ②資料から技能の向上のために必要なポイントを押さえ、技術的課題や有効な練習方法について指摘している。	①相手の動きに応じた基本動作や基本的な技ができる。 ・小手、面、胴 ・二段の技、引き技 ②基本となる技を用いて、相手に打ち込んでいくなどの簡易な攻防ができる。	①剣道の伝統的な考え方や技術的なポイントについて、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ②試合の行い方について理解し、言ったり、書いたりできる。

4 指導・評価の計画（10時間取扱い 8/10）

単元を貫く問い：試合で一本を取る技に高めていくためには、どのようにすればよいだろうか

次	時	学習活動	研究の視点	評価
1	1	1 オリエンテーション（見通しを持つ）	【研究の視点①】	【関意態】①：観察，学習カード 【知】①：学習カード
2	4	2 剣道具の着脱，剣道具の正しい使い方を覚える。 3 基本の技（小手，面，胴）を学習する。 4 二段の技，引き技を学習する。 5 約束稽古や簡易試合を行い，一本を取るために何が必要か，課題をつかむ。	【研究の視点①】	【関意態】①④：観察 【技】①：観察 【知】①：学習カード
3	4	6 判定試合の流れや方法を理解する。 7 判定試合を行い，自己や仲間の課題を見つけ，互いに指摘し合いながら，技能向上に向けて学習する。（面）	【研究の視点①】	【関意態】②③：観察 【技】②：観察 【知】①：学習カード
	本時 3/4	8 判定試合を行い，自己や仲間の課題を見つけ，互いに指摘し合いながら，技能向上に向けて学習する。（胴）	【研究の視点②】	【関意態】②③：観察 【思判】②：学習カード，観察 【技】②：観察
		9 判定試合を行い，自己や仲間の課題を見つけ，互いに指摘し合いながら，技能向上に向けて学習する。（面抜き胴）	【研究の視点②】	【関意態】②③：観察 【思判】①：学習カード，観察 【技】②：観察
4	1	10 学習して高まった技を用いて，簡易試合に取り組む。	【研究の視点②】	【関意態】①②：観察 【技】②：観察 【知】②：学習カード

5 本時の学習

(1)目標 判定試合を通して、自己や仲間の良さや課題を見付け、一本を取るための胴打ちのポイントに気付くことができる。

(2)展開

過程	学 習 活 動	指導上の主な留意点および評価	備考
導入 15分	<p>(チャイム前に剣道具の準備)</p> <p>1 挨拶, 出欠確認, 健康観察を行う。</p> <p>2 準備運動を行う。 (1) ランニング, 体操 (2) 竹刀を使った柔軟運動 (3) 送り足 (間合い意識) (4) 跳躍素振り (5) 打ち込み</p> <p>3 本時の学習目標を確認する。</p>	<p>○授業前までに自分の剣道具を準備し、胴と垂れを装着しておく。</p> <p>○竹刀や剣道具の安全確認を行う。</p> <p>徹底指導 (ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技のポイントを確認し、正しく打ち込むことを意識させる。 ・リーダーを中心に指示を出し、自主的に活動を進めていかせる。 ・活動時間を確保するため、剣道具の着装はペアで協力して素早く行わせる。 <p>○ホワイトボードを活用して、目標を視覚にとらえさせ、いつでも確認できるようにする。</p>	<p>剣道具 竹刀</p> <p>ホワイトボード パネル</p>
<p>[本時の学習目標] 判定試合を通して、自分や仲間の良さや課題を見付け、改善のために指摘し合い、練習を通して技を高めよう。</p>			
<p>4 「本時の問い」に取り組む。</p>			
<p>[本時の問い] 一本を取るための胴打ちの「剣」の技能を高めるにはどうすればよいだろうか。</p>			
展開 25分	<p>(1) 判定試合を行う。</p> <p>(2) 判定理由と助言を伝える。</p> <p>(3) 練習を行う。</p> <p>(4) グループで再評価をする。</p> <p>【言語活動】 (設定の意図) 仲間の動きを見たり、仲間からの評価を聞いたりすることで、自分の動きや変容に気付かせ、技能向上につながるようにする。</p> <p>(5) 実践練習に取り組む。 面抜き胴による対決</p>	<p>能動型学習 (ポイント)</p> <p>判定基準を明確にし、観察、判定させる。また、気付きや助言などをしっかりと意見を交わし、練習に取り組ませる。</p> <p>○判定基準を明確にする。 (気剣体の「剣」に視点を絞って判定させる)</p> <p>○判定者は試合した両者ともに良さや課題を伝えるようにする。</p> <p>評価：思考・判断 (観察・学習カード)</p> <p>B 基準 仲間の動きを観察し、良さや課題を見付け、言ったり書いたりしている。</p> <p>A 基準 B 基準に加え、技能アドバイスや改善のための方法を考え、練習の工夫をしている。 (B 基準に達していない生徒への手だて)</p> <p>○判定基準を再度確認、動画を見せるなどし、より明確な基準を示し、判定させる。</p> <p>【研究の視点②】 学びを深める振り返りの工夫 本時の問いに対する学びを相互に関わり合いながら評価することで、自分や仲間の変容に気付くことができるようにする。</p> <p>○本時の活動の中で問いに対する答えにつなげさせる。</p> <p>○意見が出ないときは、判定に至った理由を考えさせる。</p> <p>○それぞれのグループの良さを伝え、次時の学習の見通しを持たせる。</p>	<p>判定用旗 タブレット</p> <p>太鼓</p> <p>学習シート</p>
整理 10分	<p>5 学習したことを振り返る。 ・[本時の問い] に対して、活動の中で気付いたことを学習カードに書き出す。</p> <p>6 本時の学習のまとめを行う。</p> <p>7 挨拶, 片付けをする。</p>	<p>○意見が出ないときは、判定に至った理由を考えさせる。</p> <p>○それぞれのグループの良さを伝え、次時の学習の見通しを持たせる。</p>	